

地域における野生鳥獣被害対策の成果と今後の取組について

対策チーム名： 北信野生鳥獣被害対策チーム

■タイトル (27年度) 電気柵見回り点検活動とモデル園の設置について

■地域名 北信地方事務所管内

■内容概要

1 地域の概要

集落戸数	うち農家	加害鳥獣	被害農作物等	備考

2 取組の概要

区 分	内 容
経 過	<p>当管内における電気柵の設置延長（集落柵）は約 100km であり、急速に普及しつつあるが、まだ一部の地域にとどまるもので鳥獣被害は依然と減らない状況であり、防除対策としてその普及が急務となっている。こうした中、既存の設置箇所においては一時的には効果が出ているものの、管理不足等により電気柵が機能していない箇所での鳥獣被害の増加など維持管理の不備が問題化している。こうした状況を受け、7月に静岡県で発生した電気柵による死亡事故への緊急対応もあり、被害対策チームとして市町村と協働し点検に取り組んだ。</p> <p>また、個人農家への電気柵の普及は経費が掛ることから遅れており、特に小型鳥獣の防除を目的としたモデル的な電気柵農園を設置し、効果のPR等を行なった。</p>
取組内容	<p>1. 電気柵の見回り点検活動（7月～9月）</p> <p>市町村から点検箇所の推薦をいただき、被害対策チームが外向き点検の実施と点検結果のフィードバックを市町村を通じて実施。（5市町村、11箇所）</p> <p>2. 小型鳥獣被害防止のために電気柵モデル農園の設置と普及（9月～10月）</p> <p>中野市穴田のブドウ農家にて電気柵を設置し、個人農家を対象とした普及を図った。</p>
成 果	<p>平成 27 年度はツキノワグマなどの出没が少なく農業被害は比較的少なかったこともあるが、点検した箇所は課題が見つかり防除効果が高まった。</p> <p>また、自己流での設置方法の是正、電気柵管理者の適正管理等の意識の高揚につながった。</p>
農家等の方からのコメント	<p>モデル農園の園主からは、被害がなく電気柵の効果を実感した。市の補助もあるため来年は自分で設置してみたいとの意見が寄せられた。</p>

3 課題と今後の取組

電気柵の設置は毎年度役員等が変わるなど、設置方法の不備や管理方法の不備などが見受けられるため、年度当初にこうした人を対象とした講習会などが必要である。

今後は、電気柵の設置効果のPRを継続するとともに、市町村等の助成等各種の補助施策を有効活用し、広域又は個人を含めた未設置地域への普及啓発に取り組む。

4 活動状況

(1) 電気柵見回り点検活動実施箇所

NO	点検日	場所	管理者
1	H27.7.22	中野市更科	更科地区電気柵管理組合
2	H27.7.22	中野市深沢	科野地区電気柵管理組合
3	H27.7.22	中野市柳沢	柳沢地区電気柵管理組合
4	H27.7.27	木島平村内山	内山地区電気柵管理組合
5	H27.7.27	木島平村柳久保	柳久保地区電気柵管理組合
6	H27.7.27	木島平村西小路・原大沢	西小路・原大沢地区電気柵管理組合
7	H27.7.27	山ノ内町宇木	宇木地区地区電気柵管理組合
8	H27.7.27	山ノ内町横倉	横倉地区電気柵管理組合
9	H27.7.27	山ノ内町前坂	前坂地区電気柵管理組合
10	H27.7.28	栄村菅沢	菅沢農地管理組合
11	H27.9.2	飯山市飯駒	飯駒地区電気柵管理組合

(2) 活動の概要



見回り点検の状況(山ノ内町宇木地区)



点検による発見箇所(アース線の切断)



修復の状況(木島平村内山地区)



モデル農園の状況(中野市豊田地区)